





### 美濃路街道

美濃路は、東海道の宮宿(名古屋市熱田)から、中山道の垂井宿までの約57.5kmの街道です。徳川家康が、関ヶ原合戦後に凱旋の帰路としてこの路を通ったことから、「吉例(きちれい)街道」とも呼ばれました。交通量も多く、大名行列や朝鮮通信使、琉球使節などにも利用される重要な脇街道でした。この歴史とロマンのある美濃路は、当市を東西に通過しており、特に羽島市北部(小熊町・足近町)の境界を流れる境川堤防の桜並木は見事です。また、平成16年12月には(一社)日本ウォーキング協会主催の「美しい日本の歩きたくなるみち500選」(国土交通省後援)に、「はしまの美濃路」が選ばれています。

### 美濃路周辺ガイド

**おとし 起渡船場石燈台** マップ D-4  
この石燈台には漢詩が刻まれており、口碑によると、夜渡船で難儀をした竹鼻出身の力士が、油代として田二反を併せて寄進したそうです。

**太神宮と秋葉社** マップ A-3  
堤防上の右手に大きな紅葉の木があり、その下に太神宮と刻む石燈明と秋葉社がまつられている。

**西方寺** マップ B-4  
羽島市で最古の寺。もと太子堂でしたが、後に天台宗、さらに13世紀の初めに浄土真宗に改められました。

### その他寺社

**はっけんじんじま 八剣神社** 拡大マップ  
天正9年(1581)、竹ヶ鼻城の鬼門除けとして城主不破源六広綱が現在の地に遷座しました。八剣神社の例祭として、5月3日(本祭)には竹鼻まつりが行われ、山車が奉送され曳行されます。6月30日には、半年分の罪や汚れを払い清め、無病息災を願う「みそぎ神事」が行われます。  
場所：羽島市竹鼻町3298-1

**竹鼻別院** 拡大マップ  
境内には樹齢300年以上の「竹鼻別院のフジ」があり、4月には美濃竹鼻ふじまつりが開催されています。また、江戸時代の治水工事で自刃した幕臣、御小人目付竹中伝六の墓(県文化財)があります。  
場所：羽島市竹鼻町2802 ☎058-392-2379

**ほんがくじ 本覚寺** 拡大マップ  
竹ヶ鼻城主歴代の菩提寺。本堂に描かれている絵天井「雲龍」は県重要有形文化財に指定されており、幕末の大和絵師浮田一蕙育が勤王の志士として、隠棲しながら描き上げたものです。  
場所：羽島市竹鼻町2434-1 ☎058-391-5453

**美濃竹鼻 まちなか寺社巡り スタンプラリー**  
ウォーキングを楽しみながら、竹鼻町の歴史に触れてみませんか? 「美濃竹鼻まちなか寺社巡り」は、竹鼻町にある寺院や神社を巡るスタンプラリーです。すべてのスタンプを集めると、市内一部店舗で特典が受けられます。  
台紙の販売：一枚100円  
台紙の販売場所：ぐるっと羽島はしま観光交流センター 営業時間9:00~17:00 拡大マップ

**えいしやうじ 永照寺** マップ C-2  
江戸時代の藩校を尾張から明治6年に移築。本堂は、総ケヤキ・入母屋妻入り・唐破風向拝付き。聖堂建築の数少ない遺構として、岐阜県の文化財に指定されています。  
場所：羽島市福寿町平方1372 ☎058-398-2063

**大須観音(真福寺)** マップ F-2  
鎌倉時代に建立され、後に徳川家康によって名古屋に移されました。現在の大須観音は昔を偲んで建立された寺で、阿彌陀如来像、銅造聖観音立像が安置されています。  
場所：羽島市桑原町大須2759-131 ☎058-398-6578

**せいこうじ 清江寺(薩摩義士の墓)** マップ C-3  
清江寺境内に、宝暦治水工事の蹉跎の責任をとって自刃した薩摩義士の3人(瀬戸山石助、平山牧右衛門、大山市兵衛)の墓があり、岐阜県の史跡に指定されています。清江寺住職鉄船師が、彼らの死を悼み手厚く葬ったといわれています。  
場所：羽島市江吉良町451 ☎058-392-8006

**いちじやうじ 一乗寺** マップ B-2  
源平合戦(1181年)の後、人の泣き叫ぶ声や太刀打ちの音などが聞こえたといわれ、地藏尊を祀り、この寺を建てて供養したら、その後は止んだそうです。この寺の境内には、たくさんの五輪石が一か所に集めて祀られています。また、秋には、山門前の銀杏並木が哀愁に浸る景観として親しまれています。  
場所：羽島市小熊町西小熊4292 ☎058-391-5428

**ひらかた きやういじし 平方勢獅子** マップ C-2  
毎年10月の第2日曜日に、羽島市福寿町平方にある八幡神社で行われる例祭です。呼び物は、天下泰平・五穀豊穡・家内安全を祈願し、春秋の和平安楽を感謝・祝福する行事とし、江戸時代初期より、村人たちの手により守り伝えられてきた「平方勢獅子(県指定重要無形民俗文化財)」です。素朴な勢獅子達が、境内狭しと勇壮に、又、滑稽に舞い踊ります。  
場所：羽島市福寿町平方182番地(八幡神社)

**さきさち 佐吉大仏** 拡大マップ  
佐吉大仏は、「美濃聖人」と称せられた永田佐吉翁によって宝暦9年(1759)に建立された、高さ約5mの青銅の釈迦牟尼仏です。諸国巡礼の旅先で大病にかかった佐吉翁が、神仏に祈り全快したことに対する感謝の気持ちとして建立したとされています。  
場所：羽島市竹鼻町209(大仏寺) ☎058-391-5032

**永田佐吉翁について**  
佐吉翁は、江戸時代中期の美濃の国羽栗郡竹ヶ鼻村の出身です。佐吉は慈悲の精神、至高の親孝行、匿名で行う数々の社会奉仕など、その徳の素晴らしさにより、地域の尊敬を集めてきました。また、「美濃聖人」と称せられ、二宮尊徳などと同様に、国定教科書に採用された偉大な人物です。佐吉翁の墓は竹鼻町の本覚寺にあり、多くの方がお参りに訪れます。



### 円空生誕の地 はしま

**えんくう 円空**  
円空は、現在の羽島市上中町に生まれたとされる江戸時代(1632年~1695年)の修行僧で、洪水で非業の死を遂げた母の供養のため出家して全国を行脚する放浪の旅に出ました。流浪の中で円空は、庶民の幸福を願って、12万體もの仏像を彫刻しました。

西暦	年号	年令	事項
1632	寛永9	30	美濃国(羽島市上中町)に生まれる。
1661	寛文1	30	この頃、伊吹山の修行を終えて下山したと思われる。
1663	寛文3	32	郡上市美並町の神明神社の神像などを彫る。これが円空仏の初見といわれる。
1666	寛文6	35	青森を経て北海道へ渡り、多数の仏像を彫る。
1671	寛文11	40	奈良法隆寺の巡礼香壇から血脈を受ける。
1674	延宝2	43	三輪県志摩市志摩町三蔵寺の大般若経600巻を修復し、その間に落首を削ぐ。
1675	延宝3	44	大塚山に入り、役行者像などを彫る。
1676	延宝4	45	この頃、名古屋市中川区荒子観音寺に滞留し、千数百体の仏像を彫る。
1679	延宝7	48	大津園城寺の尊栄から血脈を受ける。羽島市中観音堂の護法神像を彫る。
1680	延宝8	49	この頃、茨城、群馬などで仏像を彫る。
1684	貞享1	53	関市洞戸・高賢神社に滞留する。
1685	貞享2	54	この頃、飛騨に滞留する。
1686	貞享3	55	羽島市狐穴稲荷神社御神体を彫る。長野県木曾郡等覚寺で仏像を彫る。
1689	元禄2	58	滋賀県の伊吹山や栃木県の日光をめぐり多数の仏像を彫る。関市池尻の弥勒寺を再興する。大津園城寺の尊大僧正から血脈を受け、弥勒寺は園城寺の末寺となる。
1690	元禄3	59	高山市上至町観音堂で今上皇帝像を彫り背面に「十万仏作已」と記す。
1691	元禄4	60	下呂市金山町で青面金剛神像を彫る。
1692	元禄5	61	関市洞戸・高賢神社で雨乞をする。「円空歌集」を読む。
1695	元禄8	64	7月、弟子の円長に血脈を与える。7月15日、関市池尻の長良川畔において入定する。

**なか 中観音堂・羽島円空資料館** マップ D-3  
全長222cmの「十一面観音像」やその他16体の円空仏を間近に見ることができます。また、円空上人が産湯に使ったといわれる「円空上人産湯の井戸」が隣接しています。  
場所：羽島市上中町中526 ☎058-398-6264  
開館時間：9時~17時  
休館日：月曜日  
入館料：大人300円 [団体(30人以上)150円]

**中観音堂の伝説**  
中村観音堂の本尊を彫刻しようとした円空上人は、その用材を長良川の支流に入手。「中村行」と記して川に流した。日ならずして、平方村(現羽島市福寿町平方)付近に流れ着いたのを対岸安八郡中村(現安八町)の人々が発見し大勢で自村の方へ引き上げようとしたが重くて少しも動かなかった。しばらくした頃その報を聞いて駆けつけた中島郡中村(現羽島市上中町中)の人々が引き上げた瞬間、何事もなかったように用材は軽々と上がったという。そこで対岸安八郡中村の人々は何も言わずに立ち去った。

**ながま 長間薬師寺** マップ D-3  
本尊である「薬師如来像」をはじめ、9体の円空仏が安置されています。中でも護法神像は、羽島市民会館の壁面に描かれるなど、羽島市を代表する円空仏の1つとされています。  
場所：羽島市上中町長間893 ☎058-392-3210  
開館日：要事前予約

**長間薬師寺の伝説**  
長間村薬師寺の本尊である薬師如来は、円空上人が在郷中に年老いた乞食がいるのをあわれに思っ、与えたものという。その乞食は、毎日その仏像を背負って歩いてまわっていたが、急にその姿が見えなくなった。そしてそれと同時に、付近を流れる逆川の真珠の茂る川端に毎夜火の玉が出るという噂が広まった。このため村役たちは、青年を集めてその付近を調べさせたところ、真珠の中に薬師像を抱えて死んでいる乞食を発見。火の玉の正体は薬師像から発したものであった。村人たちは驚いて、直ちにその付近を切り拓き御堂を建て薬師像を祀った。御堂の寺号は放光山と定めたが、その後現地に移転し、浄光山と改称した。



# 四季の彩り

## 羽島市 観光ガイドMAP